

分類 番号	A27	取組 名称	生ごみの水切り・マイボトルの普及促進に向けた社会実験的研究 －精華町のごみ問題の改善に向けて
研究代表者：	生命環境科学研究科	職・氏名：	教授・山川 肇
研究担当者：	京都府立大学（山川肇） 外部分担者・協力者（田中真人氏、城洋介氏）		
主な連携機関（所在市町村、機関（部署）名）	京都府精華町健康福祉環境部環境推進室		
【研究活動の要約】			
<p>マイボトル普及キャンペーンを精華町とともに設計・実施。従来の研究成果を踏まえてマイボトルのメリットをアピールするチラシを作成し全戸配布するとともに、マイボトルの販売店やマイボトルへの充填可能店の協力を得てチラシと同じデザインのパスターによるキャンペーンを展開した。さらに精華町のいくつかのイベントや和東茶・高級紅茶の試飲イベント等で啓発パネルを展示、マイボトルをアピールした。以上を踏まえてキャンペーンの効果及び今後の課題について調査を実施し、分析を行った。</p> <p>また水切り実証事業を精華町とともに設計・実施。調査協力者に食品ロス削減を促す講習会を行うとともに、調理くずを濡らさないための器具や水切り器具を用いた食品ごみ重量の削減に取り組み、食品ごみ重量を測定いただいた。また器具の使用感等の調査も実施、あわせて取組み効果を分析した。</p>			
【研究活動の成果】			
<p>精華町住民のマイボトル普及キャンペーンの認知割合は 20～30%程度と推定された。知っている人のうち、広報誌とともに全戸配布した折込チラシを見た人は 20～30%程度で、イベントで見た人も 10%程度あった。マイボトルに対するイメージを全回答者に尋ねたところ、節約になる(63%)、環境にやさしい(56%)に次いで「好きな飲料を楽しめる」(24%)が挙げられ、キャンペーンでの訴求点と一致していたことから、今回の普及キャンペーンが一定の効果を持ったと推察された。精華町のマイボトルの使用率は 70～80%程度で、2～20%程度がキャンペーンによる効果と推定された。なおマイボトルとほぼ同サイズのペットボトル飲料等を移し替えている人が使用者の約 20%に上ったことから、マイボトル使用の次のステップとして、茶葉等から飲み物を作って入れることを促す広報の必要が示唆された。</p> <p>一方、水切り実証事業への協力者の食品ごみ重量を分析した結果、水切り・食品ロス削減講習会による情報提供、濡らさない取組みと水切り器の使用で平均 10%程度減らすことができた。また濡らさないための器具が勧められること、水切り器により適度な量が異なることなども明らかとなった。また講習会では、可燃ごみの水分が 4 割であること、水分の問題点、濡らさないのも 1 つの方法、日本の食品廃棄量は世界の食糧援助量より多いこと、等の内容が印象に残ったとの結果が得られた。</p>			
【研究成果の還元】			
<ul style="list-style-type: none"> ・ H28/3/25 精華町役場 「第 9 回精華町廃棄物減量化等検討会」報告 関係団体代表等 6 名 ・ 精華町廃棄物減量化等検討会による「精華町のごみ減量に向けた提言」への研究成果の反映 ・ 「燃やすごみって約半分が水分？」（調査報告兼啓発チラシ）・全戸配布予定 			
【お問い合わせ先】 生命環境学部（研究科） 循環型社会論研究室 教授・山川肇			
Tel: 075-703-5431		E-mail: yamakawa@kpu.ac.jp	

